

## 基盤共同研究 日本常民文化研究所所蔵資料からみる フィールド・サイエンスの史的展開

期間：2016 年～

〔所員〕 泉水英計 小熊 誠 角南聡一郎 高城 玲 丸山泰明

〔客員研究員〕 全京秀

### 新資料受入れと交流協定機関訪問

泉水 英計

本共同研究は、民俗学および文化人類学そしてそれらの隣接諸学をフィールドサイエンスとして総体的にとらえ、神奈川大学日本常民文化研究所（常民研）の所蔵資料を基礎にして、その歴史的展開を明らかにすることを目的とする。同時に、常民研の基盤共同研究のひとつとして、現物資料の整理やデータ化、目録作成と、常民研と関係の深い学術機関での調査および連携事業を通じて所蔵資料に関する情報を充実させることにより、所蔵資料の研究資源化を推進するという役割も担っている。

このような目的のもと、2021 年度は、（１）川田順造特別招聘教授の個人文書の寄贈受入と（２）人間文化研究機構国立民族学博物館（民博）への出張とをおこなった。

（１）川田順造教授は、おもに西アフリカをフィールドとした研究により国際的な名声を得た文



写真 1 川田順造教授近影（撮影／岡村隆広）

化人類学者であり、直近には令和 3（2021）年度文化勲章を授与されその学術的な功績はあらためて一般にも周知された。長年にわたる学術調査や執筆活動のなかで膨大な量の書籍、書類、写真および民具類が収集され、なごらくご自宅にて管理されていたが、将来の研究用資料として常民研が寄贈を受けることになり、2020 年 2 月に第一便として段ボール箱 137 箱分の資料を神奈川大学横浜キャンパス内の一室に移送した。2022 年度より順次開封し、内容物の精査、粗目録の作成、フォルダ分けなどの整理作業をおこない、向こう 3 年間を目処に、研究利用が可能な形に整えることを目標にしている。

（２）2020 年 3 月に常民研創立 100 周年を期に、歴史的に関係の深い民博と学術交流協定を締結、これにもとづいた具体的な交流の推進に向け、以下の 2 項目について予備的な



写真2 民博 特別展「邂逅する写真たち——モンゴルの100年前と今」  
(2022年3月)

調査をおこなった。ひとつは、第一次東南アジア稲作民族文化総合調査(1957-58年)関連写真資料等の閲覧である。民博には、関連する写真資料が数千点所蔵され、常民研には、調査団を組織・派遣した日本民族学協会の事務的文書資料が所蔵されている(民族学振興会資料)。2022年度より民博では「フォーラム型人類文化アーカイブス」プロジェクトが計画され、その中のひとつとして「第一次東南アジア稲作民族文化総合調査のアーカイブス構築」が構想されている。特にタイの写真資料を



写真3 民博 企画展「焼畑——佐々木高明の見た五木村、そして世界へ」  
(2022年3月)

中心に多様な媒体の情報を総合したアーカイブスの構築をはかるべく、常民研所蔵の民族学振興会資料を関連づける可能性を探る予備調査とした。もうひとつは、特別展「邂逅する写真たち——モンゴルの100年前と今」及び企画展「焼畑——佐々木高明の見た五木村、そして世界へ」の調査観覧である。特別展の写真は、100年前と今のモンゴルの写真を対比的に展示しており、60年以上前の東南アジア稲作調査団の写真と現在を考える上でも示唆的であった。企画展は、民博 佐々木高明元館長の焼畑を巡る研究を、写真やフィールドノートなどを介して展示しており、残された調査資料をもとに一人の研究者の足跡を如何に整理し紹介するかという問題を考える題材となった。

## ■ 2021年度の活動

- 川田順造氏研究資料調査 2021年11月13日 神奈川県足柄下郡湯河原町 泉水英計・高城玲
- 川田順造氏研究資料調査・受け入れ 2022年2月15日 神奈川県足柄下郡湯河原町 泉水英計
- 第一次東南アジア稲作民族文化総合調査(1957-58年)関連写真資料等の閲覧 2022年3月16~18日 国立民族学博物館 高城玲